

8月にSGH大学・国際関係機関訪問を実施しました。

## SGH発展学習（国内大学・国際関係機関との連携）

～東南アジアの経済発展、国際貢献を考える～

平成29年8月28日（月）神戸大学、WHO健康開発総合研究センター（WHO神戸センター）

### 《目的》

大学で講義を受け、国際関係機関を訪問することで、課題研究テーマへの興味・関心を喚起し、課題研究テーマの適切な設定や理解を深める。

### 《内容》

神戸大学を訪問し、経済学部教授の石黒馨氏から、「**開発途上国（カンボジア）の貧困問題**」についてご講義をいただきました。その後、「**カンボジア農村の貧困削減策**」についての**生徒プレゼンテーション**を行い、石黒氏から研究発表についてのご助言をいただきました。WHO神戸センターでは、上級顧問官の野崎慎仁郎氏から「**感染症との闘い、WHO・神戸センターの取組**」についてお話をいただき、その後オフィスを見学しました。



石黒氏の講義



生徒プレゼンテーション



野崎氏の講話

### [参加生徒の感想]

本やインターネットの情報をもとに研究したけど、実際にカンボジアに行ってみないとわからないこともあると知り、自分で体験することの大切さを知った。講義を通じて、調査・研究の方法について少し学べたので、自分の課題研究にも生かしたい。

貧困の原因は1つではないから、解決法も1つではないことを知った。各班のプレゼンは様々な提案があり興味深かった。貧困の話は、自分たちには関係なく思えてしまうが、そうではなく、改善するためにどうすればいいかを考えてみるのが大切だと思った。

WHOは世界の健康のために調査・研究・発信していることを知った。私たちが知らないところ、気づかないところで役に立っていると思った。施設のポスターは英語の他に、アラビア語のものもあり驚いた。

「日本の常識は世界の非常識、日本の非常識は世界の常識」という言葉が印象に残った。ルールや生活様式はもちろんだが、このように教育を受けられていることを当たり前と思わずに感謝の気持ちをもって生活していきたい。